

田中るみ子の活動レポート

～誰もが生きやすいまちに～　**6、9 月議会報告**

みなさまのご意見、現場の声を
お聞かせください。
TEL・FAX ： 0940-37-0700
Email ： munakata@fnet.gr.jp

メール用
QR コード

6 月議会一般質問

★★　子どもたちが安心できる居場所を　★★

宗像市子ども基本条例では、4つの「子どもの権利」と共に子どもが豊かに成長できるよう、安全で安心な居場所づくりに努めなければならないと定めています。放課後も含めて子ども達が安心して遊んだり、過ごせる居場所が必要であると考え質問しました。

〇子どもの居場所とは

子どもの生活圏で、安全で、誰にも拒まれず、気軽に集まって自由に遊んだり、安心して過ごせる場所です。安心して過ごせるだけでなく、学びや遊びを通じて自己肯定感や社会性を育むことができ、多様な価値感に触れる環境も必要です。



〇協働事業で始まった子どもプレーパーク

宗像市子ども基本条例の「豊かに育つ権利」を具現化するものとして、2013年に市民団体との協働事業で始まりました。昨年は、子どもプレーパークをメイトム宗像で100日、学校プレーパークを6つの小学校で月1回、地域の公園で行う放課後プレーパークを5地域で月1回開催しています。

子どもは本来、遊び、体験を通して、身体的、精神的にも自分で成長できる力をもっています。大人も含め他者との関わりの中で社会性、コミュニケーション能力を身につけていく。自分がやりたいことを思いきりやり、ありのままの自分を認めてもらい、多様な価値観に触れること１人の人間として確立していきます。

子どもの権利が保障され、健やかに自分らしい育ちが守られる、子どもに優しいまちをめざして、こどもの居場所づくりに取り組んでいくことを市に要望し、私たちもその一翼を担いたいと思います。

★★　外国につながる子どもへの日本語教育の充実を　★★

宗像市の外国籍市民は増加しており、幼稚園や小中学校で外国につながる子ども（外国籍や日本国籍でも母語が日本語ではない子など）も増えています。そんな中、学校や地域で「お互いに会話が困ることがある」という声があり、昨年3月議会で取り上げました。、小中学生への日本語教育の時間がとても少ないことがわかり、教育の充実を要望しました。その後、どう改善されているかを質問しました。



〇令和 8 年度の日本語教育の実施状況

・日本語指導担当教員を1人増やし、市内 13 校を巡回して日本語指導を実施（1 人の学習時間が増加）
・新たに「**日本語サポーター**」（有資格者）制度を今年度から開始
・ゼロから日本語を学ぶ児童生徒には、初めの1か月は毎日2時間など集中して初期指導を実施

昨年度より、大きく改善されていることがわかりました。今後も多文化共生のまちづくりを推進することを要望しました。

9 月議会一般質問

★★　子どもたちにオーガニック給食を　★★

宗像市の全ての市立小中学校は、自校式給食です。学校給食では、米は100%宗像産で、農薬・化学肥料不使用の米を年 2 回提供しています。野菜などの農産物や水産物の一部も宗像産を使用し地産地消も進んでいます。子どもたちの心身の健やかな成長と、環境を守る観点から、さらに学校給食に有機農産物を使用することを提案しました。

〇給食の食材の食品添加物、残留農薬について

市は、加工品や調味料の食品添加物については、納入事業者からデータをもらい把握している。野菜の残留農薬は、市内の直売所や納入業者が定期的に検査をしていると回答。子どもは体も小さく発達段階にあるため、基準内での大人より化学物質の影響を受けやすい。予防原則のもと添加物のない調味料や加工品、減農薬の食材の使用をお願いしました。

〇有機農業と給食



宗像市の有機農業者は、令和 4 年は 8 経営体、作付面積約 30 ヘクタールが、現在は、12 経営体、約 57 ヘクタールで少しずつ増えています。有機農業を広げることは、水質汚染の抑制、生態系や生物多様性を守ります。地中にCO_2 を取り込み、脱炭素となり、地球温暖化の抑制になるなど、様々な効果が期待できます。

有機農業者を増やしていくには、作物の販路の確保が課題になります。オーガニック給食を実施している自治体は、作物を給食に使用することで、オーガニック給食を実現しています。

一足飛びにオーガニック給食にはなりません。農薬・化学肥料不使用のお米の使用回数を増やすこと。また、有機農産物の生産を増やす組みを継続し、自校式のメリットを生かして1品からでも使用し始めて、少しずつオーガニック給食にしていくことを要望しました。

9 月の議会報告

宗像市の令和 7 年度の一般会計決算

（歳入：約481.3 億円、歳出：約 469.4 億円）

市民ネットは賛成しました

【評価できること】

・防災推進で、令和 7 年の大雨の後、止水板設置等を対象とした浸水対策補助金を迅速に創設。
・宗像育ちウィークで地産地消の取り組みを行い、農薬・化学肥料不使用米を給食に提供したこと
・産後ケア事業と産前産後ヘルパー派遣事業を利用する人が増えていること

「核兵器禁止条約への当面オブザーバー参加・ゆくゆくは参加・批准を求める」意見書を採択し政府及び国会に送付することを求める請願

賛成

唯一の被爆国である日本が、この条約に参加していない現状は大きな矛盾を抱えています。

まず、第一歩として**オブザーバー参加**を行い、国際的議論に加わることから始める事だと思います。また、条約へ批准することは、核兵器の非人道性を訴え続けてきた被爆者の思いに応えるものであり、日本が核廃絶を世界に訴えることが、被爆国としての責務です。